

# 自ら学べる賢い子どもを育てる新たな「食育」空間の提案

## ■ 研究の背景

食育基本法（2005年制定）で、「食育」は健全な子育てに最も重要なものと位置づけられている。

一方、食育・子育て空間の提案は、様々な企業から提案されている。

しかし、住まい手が最も関心を寄せている（勉強のできる）賢い子どもを育てる空間提案にまでは及んでいない。

## ■ 研究の目的

子どもの賢さと調理の関係性を実践研究し、

### 家庭で家族一緒に料理をすることで賢い子どもが育つ

ことを社会に訴求する。

## ■ 研究の方法

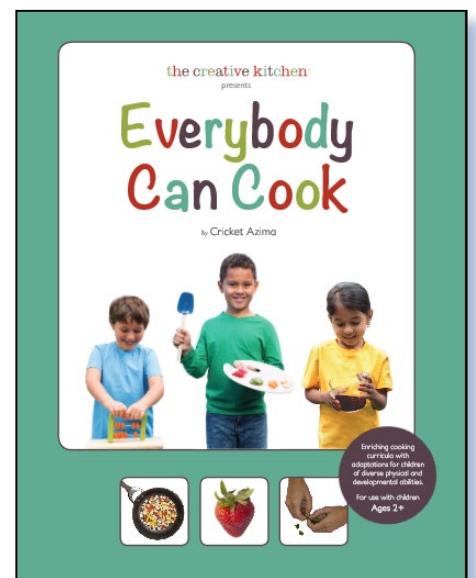
- ①子ども（小学生）の学習内容・進み具合と家庭科の調理実習の実態を把握する（各科目の学習の単元の導入時期と調理実習内容の検討）。
- ②メニューの開発を行う（料理のレシピと教える内容の検討）。
- ③キッズ料理教室の実施（子ども・保護者に対して、小学校やクッキングスクールでの試行）。
- ④その後、参加してくれた親子に対して定期的なレシピの提供および追跡調査を実施する。以上の過程を経て、一定期間後に、子どもが料理を手伝うことで子どもの成績や日常生活にどのような影響を与えたのかを明らかとする。
- ⑤よくお手伝いする子どもの家庭のキッチン周りの写真やレイアウト資料の収集、お手伝いの仕方や保護者の子どもへの接し方を聞き取り調査する。
- ⑥子育て支援マンションについての現状調査をする。

## ■ アウトプットイメージ

本研究では、次のような成果が期待できる。

- ①子育て応援マンションの魅力アイテムを創る。
- ②戸建て住宅・集合住宅のプランへの賢い子どもが育つキッチン空間の提案要素を創る。
- ③その他、顧客サービスの一環に用いられる要素を創る。

顧客への情報誌に掲載するレシピの開発や料理教室のノウハウの蓄積など。



アメリカの知育・食育を考える料理教室 Creative Kitchen に使われる教科書「Everybody Can Cook」（123頁の書籍）

研究期間：2020年9月～2021年9月（予定）キックオフミーティングは7月頃、開催予定（コロナ禍の動向により）。

- 活動内容：① 子育て支援マンションの調査  
 ② 子育てと調理に関する調査（アンケート調査・訪問調査）  
 ③ 子どもの調理（お手伝い）と頭の良さに関する実験検証と追跡調査 ほか

研究会構成：

研究会参加  
メンバー

=

《CBRD企業》  
建築会社、住宅メーカー、  
設備メーカー、インフラ企業

+

《教育関係》  
教育分野企業  
教育学研究者

+

必要に応じて

《料理教室関係》  
クッキング  
スクール関係企業